

日新

日新地区だより 64号

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

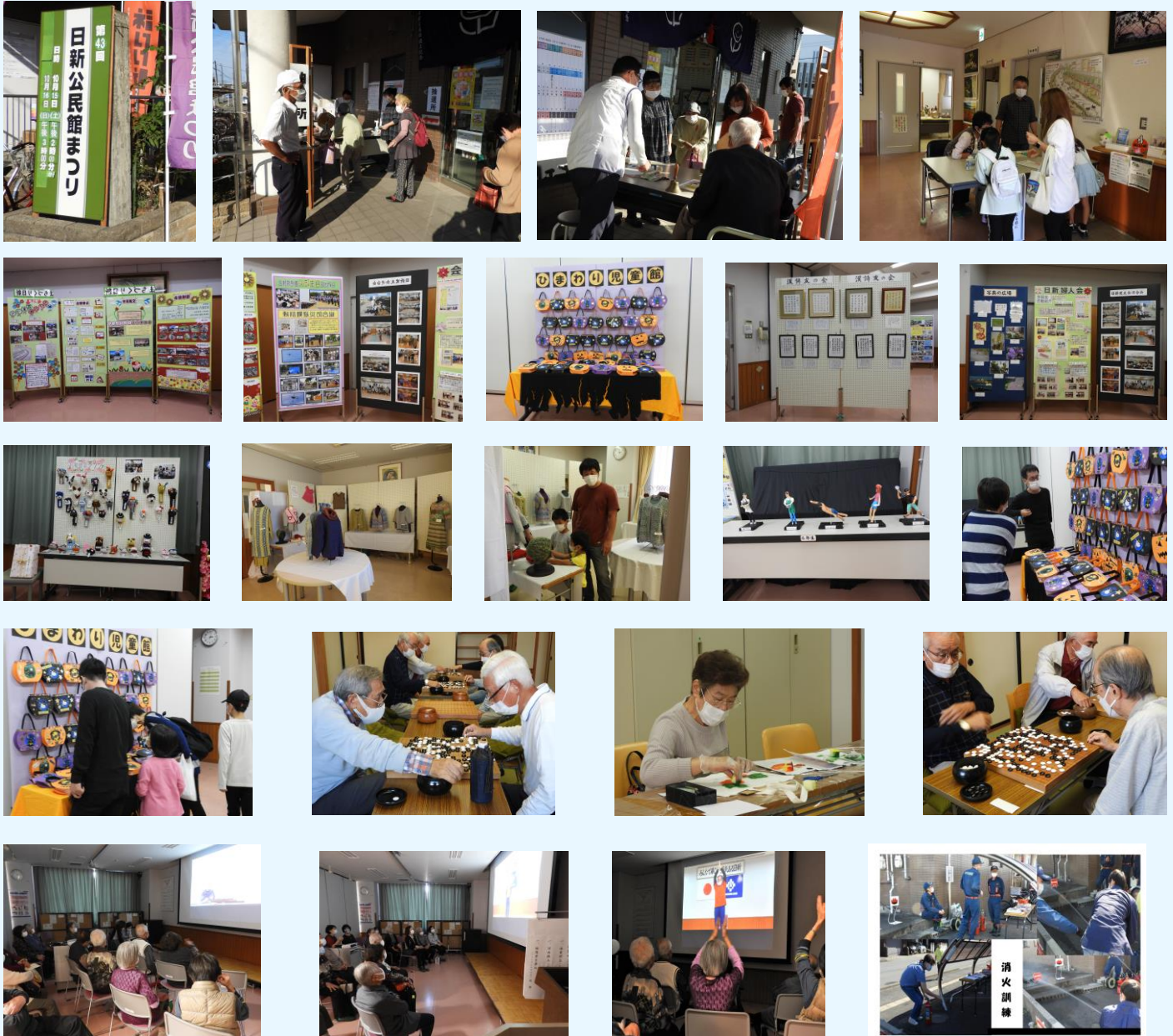
苟日新 まこと ひ あら
に日に新たに
日日新 ひび あら
に新たに
又日新 また ひ あら
に新たなり
出典 「大学」

ゆめ
にっしん

発行：まちづくり日新 広報部会
福井市文京5丁目1-8 日新公民館
発行日：令和4年（2022年）12月3日

令和4年の公民館祭り

「第43回公民館まつり」は晴天に恵まれ10月15・16日に開催された。一昨年・昨年に引き続きコロナウイルス感染対策のために縮小しなければならなかったものの、2日間での館内来場者は429名、抽選会に訪れた人は295名であり盛況であった。館内では入口に抽選会場を設置し、展示コーナー・ものづくりワークショップ・上映コーナー・囲碁サロンも設けた。人が集まったのは、ものづくりワークショップの「ポンポンペイント」「紙粘土でオリジナルマグネットづくり」と、上映コーナーである。特に上映コーナーでは「ECO体操」が上映されている時に観客と一緒に体操しているなど活気があった。また、館外では西消防署員と消防団による初期消火指導が行われた。日本でも政府の方針が経済重視のウイズコロナへと転換し、外国人の入国が緩和され、国内旅行に割引援助策を始めた。しかしまだまだ手さぐりのようである。



消防署の方からより特に気を付けてほしい事は「家庭用の消火器の消火剤はおよそ5年が期限です。」とされました

啓新高校の紹介

学校長 荻原 昭人



啓新高校は創立が1927年。今年で創立95周年を迎える学校です。正式名称は学校法人福井精華学園啓新高等学校。生徒数は約1000名。学科コースは3学科4コース。普通科(特進コース・進学コース・アスリートコース・普通コース)・調理科・ファッションデザイン科です。学校のスローガンは「可能性への挑戦」。このスローガンに込めた念いは、わたしたちは誰もが、何かを為す可能性をもって生まれてきています。まずは自分に可能性があることを信じ、何事も一度やってみる、「やれるわけがない」「できるわけがない」と、最初からあきらめないこと。できるかできないかは、やってみなければわかりません。より高い目標に向かってチャレンジするからこそ、自己の力が湧き出てきます。初めから自分で限界を決めず、自分に限界を作らず、夢や希望に向かって挑戦することを楽しむ。だからこそ、自分自身が進化・成長し、喜びを感じることができるということです。



可能性に挑戦するという事は自分自身を誰よりも信じ、行動すること。常に挑戦者の気持ちを忘れず、行動していけば、自分自身が進化・成長し、いつか必ず道は拓けていきます。啓新高校はそのような生徒を育てていく学校です。

「啓新高校」は本学舎の敷地は日新地区からみるとお隣さん、また、グラウンドは地区内にあり地区住民と生徒さんと互いに挨拶をかわします。そこで、今回、皆さんにもっと「啓新高校」を知ってもらいたいために紹介しました。今後は、色々な面で互いに協力していけることを願っております。

藤島中学校生徒と環境部員による底喰川の河岸清掃

11月9日の午後の強い日差しの中で藤島中学校生徒(66名)と環境部員(10名)による底喰川河岸周りの清掃が行われました。河岸でのゴミ収集作業班と、道路脇の花壇を整理する班に分かれて、約1時間をかけ河川清掃に取り組み、河岸の班は、前日に環境部員が刈り取りし干されたミソハギを一か所にまとめる作業を、花壇班はチュウリップの球根と葉ボタンの植え付けを行っていました。中学生が環境部員のアドバイスを受けながら作業を行う様子は心温まる光景でした。



日新地区に咲く皇帝ダリア



地区内のあちらこちらに、背丈が4~5m、先端に咲く頭花が直径7~10cmの花が咲いています。皇帝ダリア(木立ダリア)です。なぜ日新地区にこんなに多くあるのかご存知ですか?「平成26年まちづくり館外研修旅行」で戸田川発見隊(名古屋中川区)の活動を視察しました。この旅行に参加した人達が同地区に咲いている皇帝ダリアに目を奪われ、「すごい花だなあ~」「こんなに大きいダリア見たことないよね」と感想を言っていると、そのことを聞いていた戸田川発見隊からこの研修会の世話役であったまちづくり日新事務局の野村知恵子さん宛に株が贈られてきました。

そして環境部長高橋定信さんが中心になり増殖し、毎年地区内の各家庭に挿し木が配布されました。そして各家庭から福井市内の知人へと株分けされ、今では日新地区にとどまらず福井市内でも見かけるようになりました。



皇帝ダリアは数あるダリアの中でも草丈が高く、秋の青空に向かって大輪の花を咲かす姿から「皇帝」と名付けられ、花卉鑑賞用の園芸植物として植えられています。

特殊詐欺被害防止講演会（広報部会主催）



11月27日(日)に福井県警察本部と福井警察署(いずれも生活安全課・特殊詐欺防止対策係)の方による合同チームで「特殊詐欺被害防止講演会」を3年ぶりに公民館大会議室にて実施しました。

内容は下記の3部構成で行われました。

第一部 福井署生活安全課による特殊詐欺防止の実例を説明

第二部 県警本部生活安全企画課による防犯対策電話機の紹介

第三部 福井署交通課による高齢者の交通マナーと、変更された自転車法規制について

参加人数は20名弱でしたが、第一部では参加者も交えながら詐欺事件の実例を演じての説明、

第二部では防犯電話機の実物を使って説明、第三部では交通ルールや自転車保険などについて

の活発な質疑応答でした。講演された警察職員の方々からは「今までになく、地区の方々からの積極的な発言があり、充実しました」との感想をいただきました。少ない参加人数でしたが、中身の濃い90分間でした。



11 萬月(ビーバームーン)皆既月食・天王星食



月食の途中



皆既月食

11月8日夜の天体ショーは、月全体が地球の影に覆われる皆既月食と月の後ろに天王星が入る惑星食(今回は天王星食)が同時にありました。ただし、惑星食は肉眼では見ることはできません。日本では442年ぶりであり、次回は322年後の2344年に月と土星によるものがあると思われます。

(掲載した写真は乾徳3丁目の道路から撮影したもの)

各月の満月の名称

(ネイティブアメリカンの生活の中から生まれたようです)

1月 Wolf Moon(狼月)

2月 Snow Moon(雪月)

3月 Worm Moon(芋虫月)

4月 Pink Moon(桃色月)

5月 Flower Moon(花月)

6月 Strawberry Moon(苺月)

7月 Buck Moon(男鹿月)

8月 Sturgeon Moon(チョウザメ月)

9月 Harvest Moon(収穫月)

10月 Hunter's moon(狩猟月)

11月 Beaver Moon(ビーバー月)

12月 Cold Moon(寒月)

津波防災の日・稲村の火(11月5日)

平成23年の東日本大震災では、東北地方を襲った津波によって多くの命が失われました。これを受けて、「津波対策に対する法律」が制定され、毎年11月5日を「津波防災の日」と決められました。また、11月5日は1854年に安政南海地震(和歌山県)の津波発生の際に、稲に火をつけて、暗闇の中で逃げ遅れた人々を高台に避難させて命を救った「稲むらの火」の言い伝えがあります。このことを世界に広めたのは小泉八雲の「生ける神」ですが、実話と伝え継がれていることとは少し違っているようです。ともあれ人々を安全に避難させる為に自分の私財(稲)に火をつけた主人公の浜口氏は、この後自分の敷地に家屋を建て、貧者に無料提供し、地震や津波により崩壊した建物・家財・流出した米俵の収集・道路の修復作業などの仕事を与えました。自分の利益中心ではなく、人々の事を優先して考えることは、今のボランティア精神の鏡ですね。



「実話」と「生ける神」の違いは

「実話」は名前は **浜口儀兵衛**・年齢 **35才**・浜口家の場所 **低い平地**・地震の揺れ **激震** **漂流者へ知らせた**

「生ける神」は名前は **浜口五兵衛**・年齢 **老人**・浜口家の場所 **高台**・地震の揺れ **ゆっくり揺れた** **村人へ知らせた**

ちょっと一言

今年台風が少なかった理由



温暖化により、地球の空気全体が暖かくなり、台風のたまごが生まれるのに必要な空気の上下の重さの差(暖かい、冷たい)が小さくなったからです。しかし台風は少なくなったが、台風が発生するとエネルギーは大きくなります。つまり今年は温暖化が進んだために台風は大きく風も強く、雨も多かったのです。



今回のテーマは「環境部会への思いとして」である。何がいか考えた末に、10月からの環境部会の活動を書くことにした。振り返ってみると、ここ一ヶ月は活動が集中し、大変多忙な日々だったことを思い出す。10月16日公民館まつり、10月21日は日新小学校5年生に「底喰川の過去と未来約20年間の取り組み」という題名で出前授業、10月23日定例清掃、11月9日藤中ボランティアの指導、11月13日一斉清掃である。

「私はこんなに大変なことを何故やっているのか?」「何をやっているの?」「何の為に?」「何で?」「誰の為に?」「いつまで続けるの?」と自問自答する。すると、その答えが時として周りから返ってくる。

小学生から「私もボランティアに参加したい」とか、通りがかりの人が「ご苦労様です。綺麗に咲いていますね」と言われると、続けていて良かった。やっていることは間違いではないと安心する。環境美化活動を中心にした部会としても地味な活動であっても、何か世間へ貢献をしているだろうと自負し、これからも部会は続いて欲しいと願う。

今年度も残り僅かとなりましたが、お元気で毎日をお暮しでしょうか?

我々の「まちづくりさんさんコミュニティーバス」の乗車実績も一昨年の694名/月を境として、以後は完全なる右肩下がりとなり、最少時は100名未満/月と極めて厳しい状況に到りました。

社会環境は新型コロナ感染拡大の第8波を迎えておりますが、政府の方針も5回めのワクチンと“マスク・手洗い・うがい・密を避ける事”の協力依頼等と進展がないため、これからは私たち個々で感染防止とそのリスクを考え、意識的にはインフルエンザ(風邪)ぐらいの感染症と受け止め、対応する事が肝要かと思われまます。



先日の敬老の日に、ある後期高齢者が想いを語った中の言葉として「毎日の生活を通じて・・・①孤独感が強い。淋しい②友達が出来ない。家族の協力が欲しい③楽しい、面白い場所への参加をしたい」がありました。

当「さんさんバス」の利用者の約95%以上は後期高齢者ですので、今後の企画内容にも住民の皆さんが気軽によろこんで参加できるものを検討に加えながら、対応をしていきたいと思ひます。

現在は、第3次本格運行事業展開の為の具体的な修正、再生事業計画を三者会議(市役所・京福バス・まちづくり交通部会)で検討立案中です。この会議は、今までに4月、6月、8月、11月に行いました。当面は”令和5年の4月”を目標に、新規のものも含めて楽しいイベント企画を考え、推進したく思ひます。(1月に促進企画会議を実施予定)

高齢者の皆さん、「さんさんバス」を利用しながら”楽しい友達の輪づくり”に積極的に参加しましょう。先ずは行動を起こすことです。提案、要望も大歓迎ですので、いつでも気軽にまちづくり交通部会へいらしてください。

現在全国的には、約10年前に1000台であった利用バスが3000台ぐらいに増えているそうですが、果たしてコロナ禍にあつてどのような状況になっているものかな?

10月から国はコロナウイルス感染者数の「全数把握」の見直し、旅行支援金の導入、入国制限の緩和がされました。

その結果、感染者数は一時減少したように思えたものの、11月初旬から再び拡大しています。しかし、今回、政府は「第8波」の準備として「社会経済活動の維持」を打ち出す新たな宣言を決定しました。今回の政策は、以前の緊急事態宣言やまん延防止宣言等の学校休校や飲食営業自粛・時短営業というような法的拘束力をもつものではなく、各都道府県から「感染拡大対策宣言」を出すことに変更され、法的拘束力がなく支援金も少なくなるようです。

このような中でも、日新地区でのまちづくり活動は公民館まつりを始め、さんさんバス運行に伴う活動、底喰川の美化活動、3年ぶりの講演会(特殊詐欺防止)を行ってきました。今後も皆さんの協力の元地区活動を続けていきたいものです。